

第4次読書のまち八王子推進計画に基づく 令和5・6年度(2023・2024年度) 事業実施計画



1 計画の目的

令和2年(2020年)3月に策定した「第4次読書のまち八王子推進計画(令和2年度(2020年度)～6年度(2024年度))」(以下「第4次計画」とする。)では、身近な読書環境の整備に向け、施策の方向性を示した。施策に基づいた事業を計画的に実行し、社会情勢の変化を的確に捉えた取組を重点的に展開するため、前期(令和2年度(2020年度)～4年度(2022年度))と後期(令和5・6年度(2023・2024年度))に分けて事業実施計画を策定する。

前期事業実施計画が令和4年度(2022年度)で終了することから、事業の進捗状況を把握したうえで、今の社会情勢を取り巻く新たな課題に対応し、市民の読書環境の充実を図ることを目的に、後期事業実施計画を策定する。

2 図書館サービスをめぐる状況の変化

令和元年(2019年)に発生した新型コロナウイルスの感染拡大により、3密(密閉・密集・密接)の回避や非対面でのコミュニケーションの必要性が高まったことから、テレワークの普及やネットショッピングの増加など、働き方から暮らしに至るまでオンラインサービスの利用が急増し、市民の生活環境はめまぐるしく変化している。こうした社会状況の変化の中で、図書館サービスの現状について、以下のとおりまとめる。

(1) コロナ禍における図書館サービスの現状

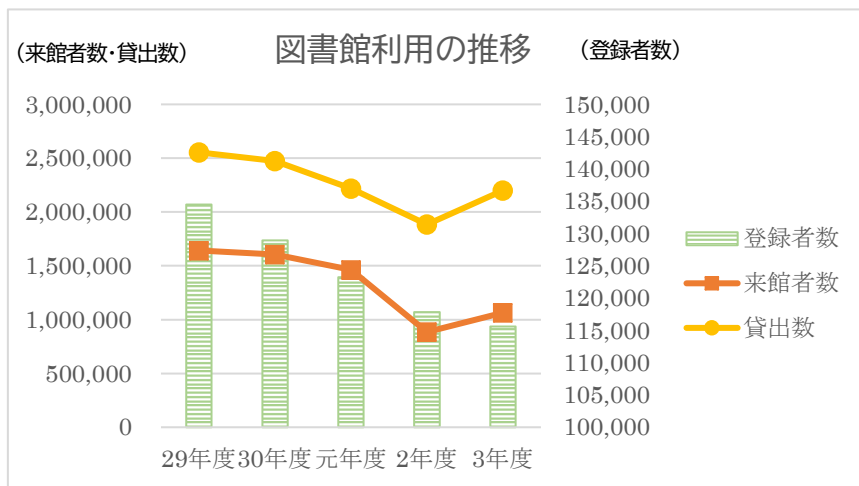
新型コロナウイルス感染症の影響下において、図書館では令和2年度(2020年度)に休館や入館制限を行ったほか、開館時間の短縮を実施した。また、図書除菌機の設置やソーシャルディスタンスの確保など、感染防止対策を講じたうえでの運営を続けてきた。

令和3年度(2021年度)は事業実施計画に掲載した事業のうち、約3割が縮小あるいは中止しており、特に子どもや高齢者に対する室内型の事業では慎重な姿勢を続けてきた。一方で、予定どおり実施した事業は7割を超え、感染防止対策を講じたうえでの事業実施に加え、「新しい生活様式」における市民の生活の変化に対応する事業の展開を進めているところである。

平成29年度(2017年度)から令和3年度(2021年度)の過去5年間の統計では、図書館へ

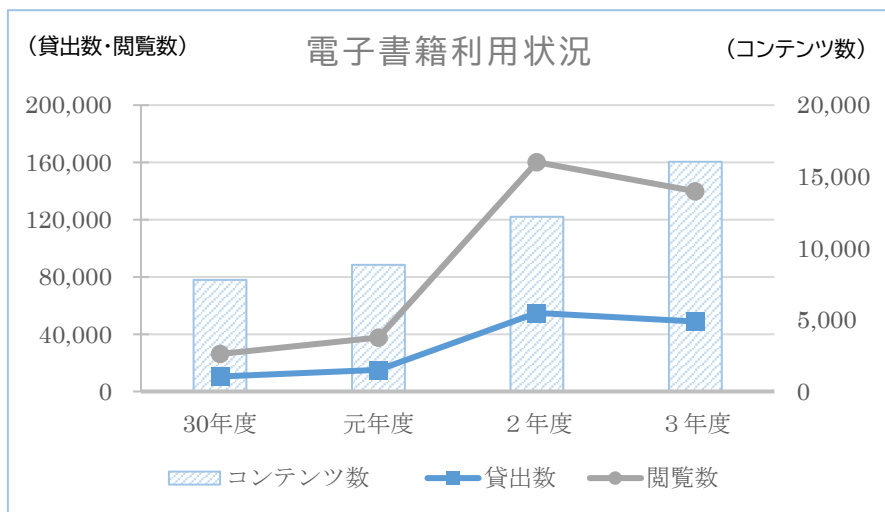
の来館者数や資料の貸出数は減少し、特に新型コロナウイルスの感染が拡大した令和元年度（2019年度）以降は利用者が来館を控える状況がうかがえる。ただし、数値が大きく落ち込んだ令和2年度（2020年度）に比べると令和3年度（2021年度）は来館者数、貸出数ともに増加しており、コロナ前の状況へ回復傾向にあるといえる。

しかしながら、利用登録者数は依然低迷しており、イベント等を活用した出張型の利用者登録など、図書館側から積極的に市民に周知PRをしていく必要がある。



一方、平成30年度（2018年度）に導入した電子書籍サービスは、令和2年度（2020年度）から貸出数・閲覧数ともに利用が大幅に増加している。対面での感染リスクを心配せず、「いつでも、どこでも」読書を楽しめるサービスとして市民の利用が進んでいる状況がうかがえる。

前期事業実施計画では、「新しい生活様式」に沿った新たな取組として、非来館型サービスの充実を掲げ、令和2年度（2020年度）以降、電子書籍のコンテンツ数の増強、電子雑誌閲覧サービスの導入、インターネット音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」の導入等を実施してきた。これらは利用状況から一定の効果が見られ、引き続き各サービスの充実が求められている。

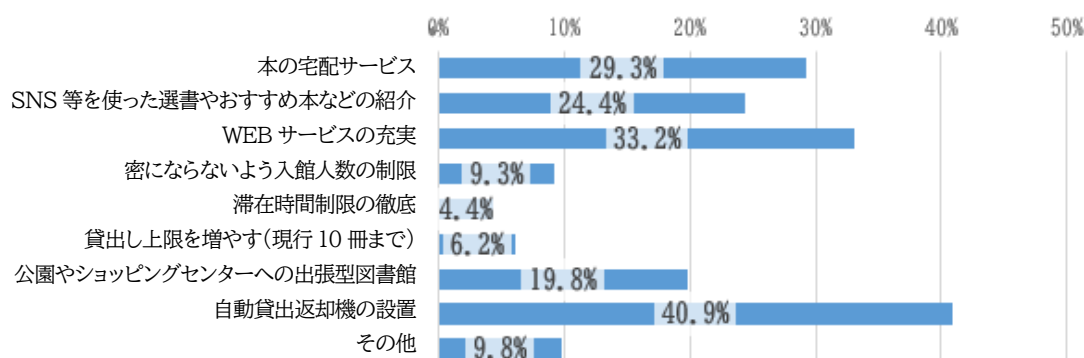


(2) 「新しい生活様式」の中で求められる図書館サービス

令和2年(2020年)9月に実施した「市民の読書環境等に関する緊急アンケート」では、市民が今後図書館に望むサービスとして「自動貸出返却機の設置」のほか、「WEBサービスの充実」「本の宅配サービス」などが多く回答に上がった。

また、八王子市と中央大学の共同研究により「市民の読書環境等に関する緊急アンケート」の自由回答の分析を行った結果、重要度が高い単語として「電子書籍」が上がるなど、市民の関心が高い状況がうかがえた。これまでの来館が中心の図書館サービスにとどまらず、新型コロナウイルス感染症の影響下での「新しい生活様式」に対応した非来館型・出張型サービスの充実が求められている。

こうした状況を踏まえ、図書館では電子書籍サービスの充実を図ったほか、公園や保健福祉センターを活用した出張型おはなし会、ブックスタート事業とあわせた出張型利用者登録、インターネットから市内図書館の未所蔵資料のリクエストができるオンラインリクエストなどのサービスを開始した。また、図書館周辺の公園と連携した読書を楽しめるイベントとして「パークライブラリー」を開催し、参加者から好評であったため、実施回数や会場を増やして対応している。



「市民の読書環境等に関する緊急アンケート」
(令和2年(2020年度)9月実施)より一部抜粋
(無作為抽出の対象者の回答)

(3) DXを活用した図書館サービス

「新しい生活様式」に対応したサービスが求められる一方、長期的な視野では、人口減少や少子高齢化による急速な社会状況の変化でサービスの担い手不足が懸念され、ポストコロナ時代の新たな日常と、持続可能な社会を形成していくために、今後ますますデジタル技術の活用が重要となる。

こうした状況に対応するため、本市では令和4年度(2022年度)に「八王子市デジタル・トランスフォー

一メーション(DX)推進計画」を策定した。本計画において図書館では、①「図書館機能のデジタル化の推進」、②「電子図書館の推進」を掲げており、事業実施計画でもこれらを重点項目のひとつと捉え、関連事業を計画的に推進していくことが求められる。

また「市民の読書環境等に関する緊急アンケート」では、「自動貸出返却機の設置」が最も多く回答に上がっており、こうした市民ニーズの高まりに対応する検討が必要であるといえる。

(八王子市デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画より一部抜粋)

① 図書館機能のデジタル化の推進

オンライン申請、プッシュ型サービスの拡充、セルフ貸出機の導入など、図書館システム機器の更新により最新技術を活用し、市民の利便性の向上をはかる。

② 電子図書館の推進

電子書籍の充実など、デジタル技術の活用による多様な読書環境の充実をはかる。

3 計画進行における重点項目

以上を踏まえ、後期事業実施計画では、前期事業実施計画で掲げた①「来館型サービスの質的向上」、②「非来館型・出張型サービスの充実」に加え、③「デジタル技術を活用した図書館サービスの向上」を重点項目と捉え、ポストコロナ時代を見据えた身近な読書環境の整備に取り組んでいく。

① 来館型サービスの質的向上

新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、必要な感染防止対策を講じながらイベント等の事業を行うとともに、合理的かつ効率的に図書館運営を実施する。地域の情報拠点として、本選のサポートや図書館を活用した行政情報の発信など、来館型サービスの質的向上を図る。

② 非来館型・出張型サービスの充実

「新しい生活様式」に沿った身近な読書環境の整備のため、市民ニーズが高い非来館型・出張型サービスを引き続き拡大していく。

③ デジタル技術を活用した図書館サービスの向上

デジタル技術の活用による市民の利便性の向上や多様な読書環境の充実を図るため、図書館機能のデジタル化と電子図書館を推進していく。

4 重点施策

(1) 乳幼児の読書活動支援

◆ 出張型利用者登録の実施【充実】

乳児健診時におけるブックスタートや出張おはなし会等のイベントを活用した利用者登録の機会を増やし、乳幼児やその保護者の図書館利用を促進する。

(2) 小・中学生・高校生・大学生の読書活動支援

◆ 本の POP コンテスト【充実】

小学生から大学生を対象に「おすすめしたい本」の POP 作品を募集する「本の POP コンテスト」について、地域のイベント等を活用して周知 PR の機会を拡大する。

◆ 八王子の八冊【新規】

20歳の市民を対象にした「二十歳を祝う会」で配信するブックリスト「八王子の八冊」を作成する。また、掲載された本の展示を行い、若者が読書の楽しみに触れるきっかけとする。



ブックスタート



令和3年度(2021年度)
本の POP コンテスト最優秀賞作品

(3) ゼロ・カーボンシティの実現に向けたリサイクル

◆図書のリサイクルの推進【充実】

ゼロ・カーボンシティの実現に向けて、不用になった図書館資料を市民に提供するほか、地域で開催される古本まつりのチャリティ事業への協力、寄贈図書の受け入れなど、図書のリサイクル等を推進する。

(4) 地域との連携によるコミュニティの活性化

◆地域イベントへの参加や商店会・他団体との連携【充実】

地域イベントや子育て・福祉イベント等へ図書館としての参加の機会を拡大することで、読書の普及啓発や図書館情報の効果的な発信を行い、地域の情報拠点として地域コミュニティの活性化に寄与する。



八王子古本まつりでの出張おはなし会

(5) 新たな読書空間の整備

◆パークライブラリー【充実】

図書館周辺の公園を活用し、読書関連のイベントやおはなし会を開催する「パークライブラリー」について、各団体との連携を強化し、実施回数・実施場所を増やす。

(6) 非来館型サービスの拡充

◆電子書籍・Web コンテンツの拡充【充実】

オーディオブック、インターネット音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を継続して運用するとともに、電子書籍サービスのコンテンツ数を増強し、非来館型サービスの充実を図る。

◆オンライン利用者登録【新規】

図書館に来館せずに利用者登録ができるよう、従来の郵送による登録に加え、新規でオンライン申請による登録を検討する。



長池公園での南大沢パークライブラリー



電子書籍サービス(イメージ)

(7) デジタル技術を活用した図書館サービスの向上

◆小・中学校と連携した電子図書館の推進【新規】

GIGA スクール端末を使い、児童・生徒が朝読書等で電子書籍を活用できるようにする。あわせて、青空文庫の活用や児童書の読み放題パックを購入し、多数の児童・生徒が同時に読書できる環境を整える。

※GIGA スクール：児童生徒に1人1台の学習者用端末と、クラス全員が一度にアクセスしても利用できる通信環境を整備するもの。

◆セルフ貸出機の導入の検討【新規】

利用者のプライバシー保護やコロナ感染症対策としての接触減、窓口業務の効率化のため、図書館にセルフ貸出機の導入を検討する。

◆プッシュ型サービスの導入の検討【新規】

サービスを希望した利用者が資料を検索する際、過去の貸出資料等の傾向からおすすめの資料をリストとして表示するプッシュ型サービスの導入を検討する。

◆スマホカードの導入【新規】

スマートフォン等の端末に利用者カードのバーコードを表示させることで、利用者カードの代わりとして使用できるようにする。



スマホカード(イメージ)

(8) 高齢者・障害者サービスの実施

◆高齢者への読書活動支援【充実】

来館が困難な高齢者施設入居者の読書活動支援のため、出張図書館や団体貸出の実施数を増やす。また、「幸齢者サロン」の開催や「認知症情報コーナー」の設置など、読書を入口とした高齢者の認知症予防や、認知症の方との共生に向けた取組を関係所管と連携して充実させていく。

◆ボランティアの育成及び団体への支援強化【充実】

認知症予防のための絵本読み聞かせ講座を実施し、地域で活動するボランティアを増やすほか、図書館に關係する市民団体を支援する。



幸齢者サロン



認知症情報コーナー



図書館ボランティア



絵本読み聞かせ講座

5 指標の検討

新型コロナウイルスの感染拡大により、図書館の来館者数や貸出数は減少しており、令和3年度（2021年度）には回復してきているものの、第4次計画で指標としている図書館の実利用者率、市民1人あたりの貸出数ともに影響をまぬがれない状況にある。

一方で、電子書籍等の利用実績は伸びていることから、今後、指標を設定する際には電子書籍の貸出数など非来館型サービスの利用を考慮したものに見直しを図るなど、検討が必要であることが、令和4年度（2022年度）第3回生涯学習審議会においても指摘されたところである。

「新しい生活様式」における市民生活の変化を踏まえ、次回計画策定時には現状に基づいた図書館サービスの効果が測れる指標の設定していく。

6 計画の進行管理

新型コロナウイルスの感染状況も見据えながら、毎年度、各取組の数値分析を行い、ローリングを実施していく。